

小笠原市長が白石市など被災地を訪問

4月6日(水)から8日(金)の3日間、小笠原市長は姉妹都市の宮城県白石市や胆振地方に縁のある沿岸部の被災地を訪問しました。

これは、白石市の災害見舞訪問をするとともに、他の被災地の状況を把握し、登別市にできる支援のあり方を検討する一助とすること、また、西胆振3市4町(登別市、室蘭市、伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、白老町)で構成する『登別洞爺広域観光圏協議会』が、圏域内のホテルや旅館に約3千人の被災者を受け入れる用意があることを、宮城県などに説明することを目的としたもので、今回は、白石市のほか宮城県災害対策本部や伊達市に縁のある宮城県亘理町・山元町、福島県新地町を訪問。また、沿岸部の被災者が身を寄せる宮城県角田市にも訪問しました。

姉妹都市の白石市は、先の記事でも、お知らせしたとおり、約57億円の被害を受けるなど大きな被害を受けていますが、津波に遭った沿岸部のまちでは、家族や隣人が依然

行方不明であったり、自宅のあった被害地へ立ち入りができなかったりするなど、被害状況の全容が明らかにならず、被災者は心癒えぬまま、集団での避難生活を余儀なくされています。

また、仮設住宅の建設も思うように進まないなど、復興への道のりは遠いものとなっています。



写真：津波により市街地が姿を消した宮城県山元町

緊急相談窓口には12件の相談

3月17日より、被災者の支援のために設けた『緊急相談窓口』には、4月14日までに12件の相談が寄せられました。

白石市に1千万円の支援を決定

市は、東日本大震災により被災した白石市を支援するため、近隣市や共に白石市の姉妹都市である神奈川県海老名市と協議し、支援物資と合わせて1千万円を支援することとし、海老名市と共同で支援した物資と単独で支援した物資(ブルーシート)の費用を除いた700万円を見舞金として贈呈することとしました。

このほかにも被災地に500万円を支援

白石市への支援のほか、地震や津波により被災した岩手県や宮城県、福島県など東日本の被災地支援のため500万円を日本赤十字社北海道支部登別市地区に寄託することとしました。

震災による経済対策と防災体制の見直しを進めています

3月22日に市、登別商工会議所、登別観光協会、登別建設協会の代表者などが集まり、『東北地方太平洋沖地震に係る登別市経済対策連絡協議会』を設置し、被災地への支援や市内経済の影響についての情報を収集・共有しています。

また、3月24日には市、登別市連合町内会、登別市社会福祉協議会の3者による『震災対応市民連絡協議会』を設置し、市民と行政、関係機関が情報を共有するとともに、大津波を想定した防災体制の再構築に向けて、今回の震災を踏まえた市民意見の集約を進めています。

特に、津波のときの初期避難については、市民の皆さんが安全に高台へ自主避難ができるよう、早急に意見をまとめ、整備を進めることとしています。